

「マルチPPPoE」設定ガイド

はじめに

本ガイドでは、BARSW-4P HG を使用し、同時に異なる2箇所のプロバイダーに接続する手順について解説します。



- 1) 本サービスへの対応には、ファームウェアを更新する必要があります。
ファームウェアの更新に関しましては、ダウンロードページにてご確認ください。
- 2) 本サービスのご利用は「マルチPPPoE」接続でのご利用になり、「Unnumbered IP」を使用するサービスはご利用いただけません。
- 3) 本書は「マルチPPPoE」の解説であり、「PPPoE / Unnumbered IP」とは異なります。
- 4) 「マルチPPPoE」接続では、アカウント登録は5箇所設定できますが、同時接続は2箇所までの設定になります。
- 5) 「マルチPPPoE」接続では、PPPoE以外の接続タイプと併用はできません。
- 6) セッション2では、パーチャルサーバ、スペシャルアプリケーション、DMZのご利用はできません。その他「マルチPPPoE」機能利用時の制約事項は、「WAN側設定編」の取扱説明書をご参照ください。

1 設定値の確認

実際に設定すべき値は、プロバイダーに指定された値を入力してください。設定例としては以下の値を使用しますが、実際に設定する際にはプロバイダから指定された値に読み替えてください。

設定例

- 1) PPPoE設定アカウントを1~3で設定します。
- 2) アカウント1、3を通常のプロバイダー接続設定にします。
- 3) アカウント2には、フレッツ・スクウェア接続設定にします。
- 4) 接続指定：セッション2の接続先設定方法は別途記載します。



BARSW-4P HG のLAN側IPアドレスは工場出荷状態で「192.168.1.1」です。設定を行うためのクライアントPCはDHCPを有効に設定しておいてください。

設定例 … アカウント1	
接続指定	セッション1
PPPoE 接続名	corega 1
ユーザー名	myname@isp.ne.jp
パスワード	*****
接続方法	トリガー接続
無通信タイマー	15分
DNS	自動取得
接続先設定	設定無し

設定例 … アカウント 2	
接続指定	セッション2
PPPoE 接続名	corega 2
ユーザー名	guest@flets
パスワード	*****
接続方法	トリガー接続
無通信タイマー	15分
DNS	自動取得
接続先設定	有効

設定例 … アカウント 3	
接続指定	指定無し
PPPoE 接続名	corega 3
ユーザー名	yourname@isp.ne.jp
パスワード	*****
接続方法	トリガー接続
無通信タイマー	15分
DNS	自動取得
接続先設定	設定無し

2 BARSW-4P HG の設定

本機には以下の設定を行います。BARSW-4P HG にWebブラウザで接続し、メニューから各設定項目を選択してください。



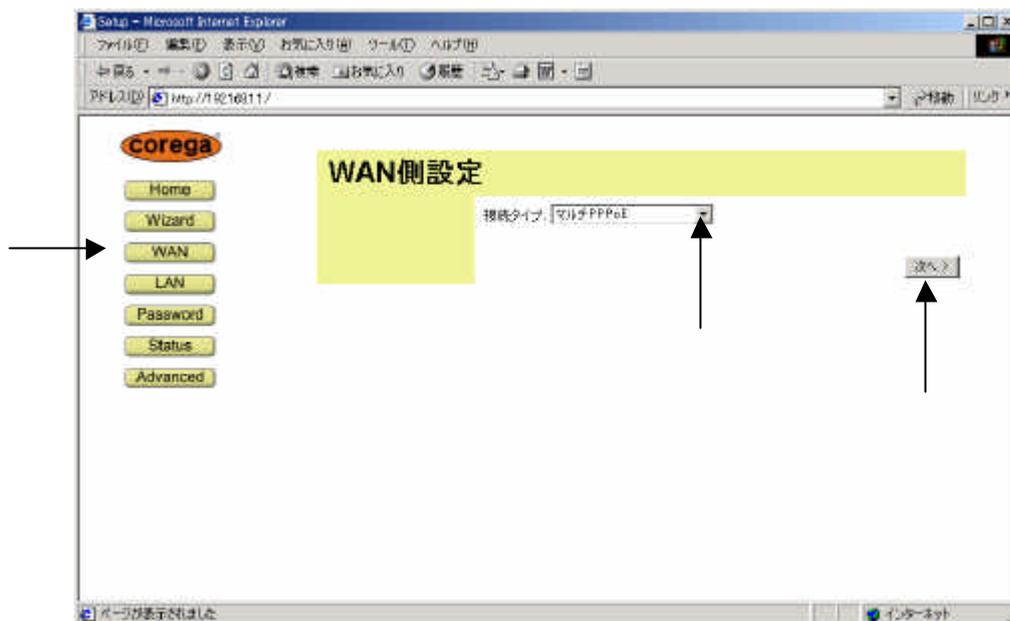
BARSW-4P HG のLAN側IPアドレスは工場出荷状態で「192.168.1.1」です。設定を行うためのクライアントPCはDHCPを有効に設定しておいてください。

2-1 マルチPPPoE の設定

画面左側のメニュー項目： 「WAN」

接続タイプ「マルチPPPoE」

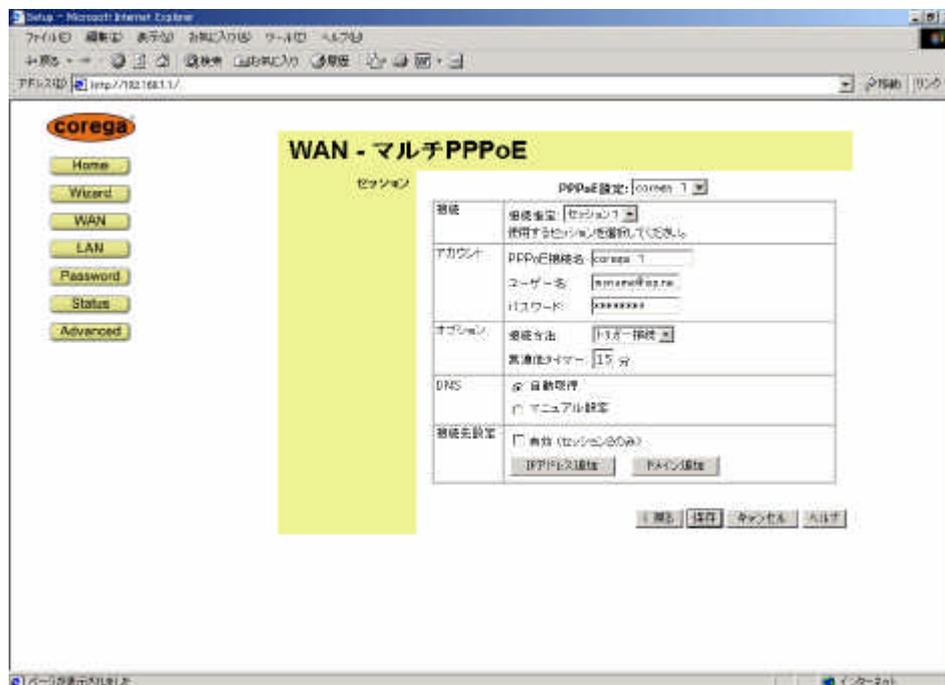
「次へ」をクリック



2-2 マルチPPPoE セッションの設定

設定例 アカウント1の入力画面

値を設定すると以下の状態になります。



全ての値を設定したら、「保存」ボタンをクリックします。

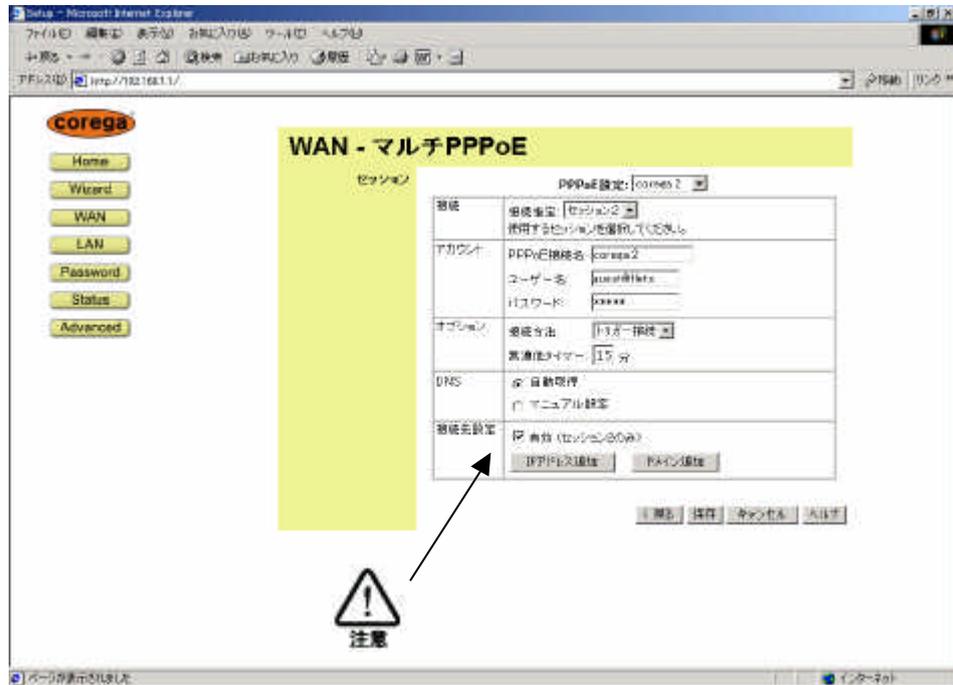
セッション2での接続先設定以外の通信は、全てセッション1を使用します。



注意

設定例 アカウント2の入力画面

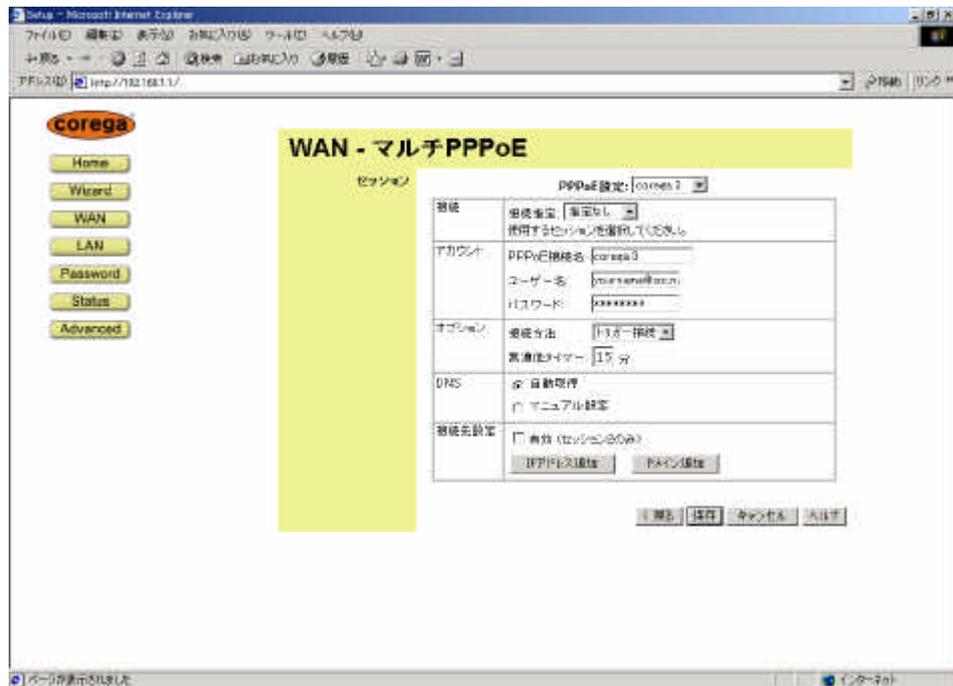
値を設定すると以下の状態になります。



全ての値を設定したら、「保存」ボタンをクリックします。

設定例 アカウント3の入力画面

値を設定すると以下の状態になります。



全ての値を設定したら、「保存」ボタンをクリックします。



接続指定でセッション2の設定を行った場合、接続先指定が自動的に有効になります。セッション2へのルーティングを行うためには、接続先設定のIPアドレス追加、ドメイン追加設定が必要です。

2-3 セッション2 IPアドレス追加の接続先設定

接続先設定のIPアドレスは、セッション2を使用して通信したいWAN側グローバルIPアドレスを入力します。ここでは接続先設定として、IPアドレス追加の設定例を記載します。

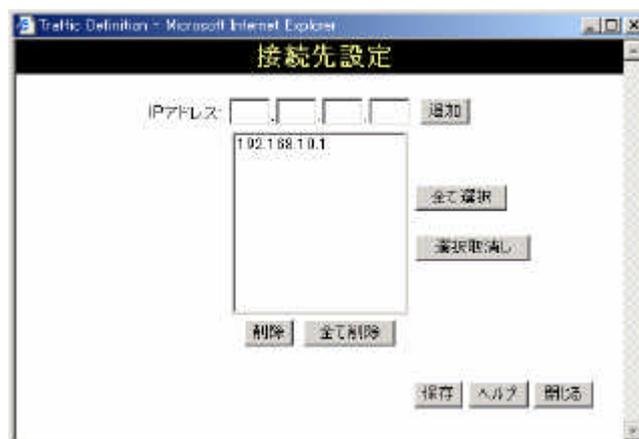
接続先が1箇所の場合

設定例	
接続先	coreqa ホームページ
IPアドレス	192.168.10.1

値を設定すると以下の状態になります。



値を設定したら、「追加」ボタンをクリックします。



設定一覧に追加されたら、「全て選択」ボタンをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。

接続先が 2 箇所の場合

設定例	
接続先 A	coreqa ホームページ
IPアドレス	192.168.10.1
接続先 B	特定の ホームページ
IPアドレス	192.168.10.2

値を設定すると以下の状態になります。



設定一覧に追加されたら、「全て選択」ボタンをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。

接続先が 2 箇所で、どちらか一方を選択したい場合

192.168.10.1 を選択すると以下の状態になります。



設定一覧より選択したいIPアドレスをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。2つ以上選択したい場合は、Ctrl キーをおしながらクリックしてください。



接続先設定のIPアドレス最大登録数は、10個までです。

2-4 セッション 2 ドメイン追加の接続先設定

接続先設定のドメインは、セッション 2を使用して通信したいドメイン (URL)を入力します。ここでは接続先設定として、ドメイン追加の設定例を記載します。

設定方法

- 1) 入力には、ドメインまたは文字列ルールになります。
- 2) www.corega.co.jp/support のような / (スラッシュ)以降のディレクトリ文字列は設定に反映されません。
- 3) フルドメイン (www.corega.co.jp)で入力した場合、このドメインのみセッション 2で通信します。
- 4) サードドメイン (.corega.co.jp)で入力した場合、www 以外のドメイン (support.corega.co.jp) の場合もセッション 2で通信します。
- 5) セカンダリドメイン (.co.jp)で入力した場合、.co.jp となるドメインは全てセッション 2で通信します。
- 6) プライマリドメイン (.jp)で入力した場合、.com など以外のドメインは全てセッション 2で通信します。
- 7) フレッツ・スクウェアなどをセッション 2で接続する場合、ドメイン名にflets と入力すれば、フレッツ・スクウェア内の通信は全てセッション 2で通信します。
- 8) www.*.*.co.jp のような、ワイルドカードは使用できません。



接続先設定のドメイン最大登録数は、10個までです。

設定例	
フルドメイン	www.corega.co.jp

値を設定すると以下の状態になります。



設定一覧に追加されたら、「全て選択」ボタンをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。

設定例	
サードドメイン	.coreqa.co.jp

値を設定すると以下の状態になります。



設定一覧に追加されたら、「全て選択」ボタンをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。

設定例	
セカンダリドメイン	.co.jp

値を設定すると以下の状態になります。



設定一覧に追加されたら、「全て選択」ボタンをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。



ドット(.)の入力をせず 例: co.jp と設定した場合、www.*.* co.jp などセッション2で通信してしまいます。

接続先を選択したい場合

値を設定すると以下の状態になります。



設定一覧より選択したいドメインをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。2つ以上選択したい場合は、Ctrl キーをおしながらクリックしてください。

2-5 セッション 2 におけるフレッツ・スクウェアの接続先設定

セッション2をフレッツ・スクウェアに設定する場合の接続先設定です。セッション2の設定例は、本書 2 - 2 マルチPPPoE セッションの設定を参照してください。フレッツ・スクウェアへの接続先設定をすることで、フレッツ・スクウェア内のページは全てセッション2で通信します。

設定方法	
ドメイン名	.fleets



- 1) セッション2の接続指定でフレッツ・スクウェアに接続設定した場合、セッション2ではフレッツ・スクウェア以外のアクセスはできません。
- 2) フレッツ・スクウェア以外の通信は、全てセッション1で通信します。

フレッツ・スクウェアを接続先に選択したい場合

値を設定すると以下の状態になります。



値を設定したら、「追加」ボタンをクリックします。



設定一覧に追加されたら、「全て選択」ボタンをクリックし、「保存」ボタンをクリックします。

2003年6月修正